

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第2委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成24年1月30日(月曜日)	開 議 午前 10 時	閉 議 午後 12 時 10 分
出席委員	西口 井上 福井 馬場 藤本 菱田 湊 小島		
執行機関出席者	湯浅経済部長、大西農政課長、堤農林整備課長、船越商工観光課長、奥村商工観光課参事 高屋まちづくり推進部長、柴田まちづくり推進部理事、古林都市計画課長、伊豆田都市整備 課副課長、中井桂川・広域交通課長、竹村道路河川課長、橋本建築住宅課長 大坪上下水道部長、赤間上下水道総務課長、石田水道課長		
傍聴	可・否	市民 名	報道関係者 名 議員 名

会 議 の 概 要

開 議 (西口委員長 あいさつ)

<事務局日程説明>

2 平成22年度決算に係る附帯決議の対応方針について (理事者説明・質疑)

[理事者入室] 上下水道部 10:02~

<上下水道部長あいさつ>

維持管理費(簡易水道事業特別会計)

<水道課長 資料に基づき説明>

[質疑]

<馬場委員>

漏水調査については、どのような体制をとるのか。

<水道課長>

専用の機器を用いて調査を行っている。毎時2.6トン、例えるならば水道の蛇口2,000本程度から水は漏れている状況であるが、消火栓使用や冬期の凍結防止の放水等も含まれている。漏水量の増減を調査し、早期発見、早期修繕により有収率の向上に努めている。

<藤本委員>

第4次総合計画で川東地域の3簡易水道を統合する取り組みは年次的にどのように進める予定か。

<水道課長>

簡易水道統合の補助制度が平成28年度で終了することから、近隣の簡易水道の統合は平成28年度までに実施することを目標としている。川東地域の3簡易水道の人口は全体で6,800人であり、給水人口が5,000人を超えると上水道に編入することとなる。簡易水道の統合は上水道編入ということを見据えて、上水道のビジョンを立て、全体的に考えて取り組んでいきたい。

<西口委員長>

附帯決議の内容を踏まえ、しっかりと努力されたい。

[理事者退室]

[理事者入室] 経済部 10:15~

<経済部長あいさつ>

雇用対策経費、ふるさと雇用再生特別交付金事業経費、緊急雇用創出事業経費
<商工観光課長 資料により説明>

[質疑]

<小島委員>

主な取り組みとして、重点分野雇用創出事業に該当する事業を実施するとは、どのようなところを考えているのか。

<商工観光課長>

国からの通知内容としては、介護、医療、農林水産、環境エネルギー、観光の分野で示されているところである。

<馬場委員>

介護とは、一時的なものにあたるのか。また、環境エネルギーについては、既存のエネルギーがどのくらいあるか、そのような調査に活用するのか。

<商工観光課長>

国から示されている内容については、雇用の延長は1年のみの制約があり、その中で雇用創出、事業の内容を吟味していきたい。詳細は決まっていない。

<藤本委員>

京都学園大学との就職連携は。

京都学園大学の市への就職枠の有無は。

京都学園大学に対する地元企業等の雇用紹介は。

<商工観光課長>

雇用促進協議会を通じて、新卒者の就職活動にあたっての地元企業等の説明会に参画し、観光資源を中心に亀岡市の情報発信に努めている。

市職員への採用は所管外であるが、ふるさと緊急雇用対策事業の要件の中で、市内企業が京都学園大学生、卒業生を雇用された場合、2名以上という要件を1名から対応しようという措置を講じている。

京都学園大学の新卒者が市内の企業に就職できるよう、サポートセンターと連携して積極的に取り組んでいる。

<福井委員>

高校への就労支援は。

<商工観光課長>

高校についても同様、雇用促進協議会を通じ、情報交換、情報把握を行っている。大学に比べて高校の方がはるかに就職率は高い実態であることから、現状では情報交換に留まっている状況である。

<福井委員>

就職率が高いことは承知している。大学生以上に高校生が地元企業に就職する率は高いので、その点も踏まえて取り組まれない。要望。

農業担い手づくり育成事業経費、地域営農担い手条件整備事業経費

< 農政課長 資料により説明 >

[質疑]

< 馬場委員 >

生涯学習大賞の授与式で紹介された「秋津野塾」の取り組みのように、廃校を利用した担い手づくりなど、具体的な地域の受け皿への振興の考えは。

< 農政課長 >

亀岡地域農業再生協議会という市内 18 町の営農組合が入っている組織があり、そのようなところで地域ごとの課題、目標を聞き、支援するなど、地域ごとの情報交換、情報収集に努めている。

< 湊委員 >

新規就農希望者数は年間どのくらいか。

< 農政課長 >

相談は 10 件程度、そこから実際に就農者となるのは 1～2 件である。

< 藤本委員 >

たわわ朝霧の売り上げの推進体制、供給体制は。
ガレリアかめおかの朝市の売上と売り場面積の拡大の考えは。

< 農政課長 >

J A が実施主体である。年間 5 億円程度の売り上げがあると聞いている。
年間 8～9 千万円の売り上げである。朝市の協議会と相談し、今年度は駐車場からよく見えるように朝市の前の植栽を除去するなどの取り組みを市民協働課と調整して進めている。

< 菱田委員 >

新規就農希望者について、農業は安易なものではなく、現場は甘いものではない。その点で、就農希望者とそのサポーターとして受け入れる農家にとっても、それぞれにリスクが伴う。様々な制度があるので、情報収集して新規就農希望者、サポーターにもアドバイス等の支援を充実されたい。要望。

< 経済部長 >

農地、住まい、機械などたくさんの課題がある。懇切丁寧に対応する体制で努めていきたい。

< 西口委員長 >

各直売所で何が売れているのか、直売所の特徴あるしかけづくり、そのようなことの情報把握、市場調査にも努めてほしい。要望。

商工業振興対策経費

< 商工観光課長 資料に基づき説明 >

[質疑]

< 井上副委員長 >

行政は足を運んで商店の声を聞いてもらいたい。現場の声というものは、理事者の考えているものよりも相当厳しいもの。現場では後継者、売り上げの問題など様々な問題を抱えている。何を求められているのか、確かめてもらいたい。要望。

< 馬場委員 >

(仮)ものづくり産業振興ビジョンの策定状況は。
亀岡の中小企業のもっている技術力等をPRする方策は。

<商工観光課長>

企業立地に向けては用地への誘導の確保が重要であり、都市バスの方向付けの中で、具体的な施策を策定していきたい。できる限り事業効果、実効性が確保できるような計画にしたい。

亀岡にも優秀な技術を有する企業があり、今後もより内外に発信できるよう、経済団体とも連携を図っていきたい。

<馬場委員>

経済部として都市計画マスタープランへの反映などの要望はされているのか。

<商工観光課長>

どのような企業誘導を図るか、その方向性について都市バスの議論をされている。その検討委員会に参画し、担当部署と連携を図っている。都市バスの位置づけの中でビジョンを策定していきたい。

<藤本委員>

経済の活性化の根本的な要因は国のデフレ対策の不備であり、地方で細かな手を打っていても何の進展も得られないと考える。経済団体と連携して国に対し要望をあげるなど考えているのか。

<商工観光課長>

企業立地に向けた緩和策など、市長から府へ要望もしている。またトップセールスについても経済団体とも連携して取り組んでいる。

<湊委員>

企業立地について、京都府に寄せられる企業数は多くあると聞くが、ぜひ亀岡に来てほしいと京都府とタイアップを図っているのか。

<商工観光課長>

企業立地推進協議会に参画し、情報を把握している。本市としては東京へ出向き亀岡の情報発信をするなど積極的な姿勢をとっており、京都府から本市になじむ情報があれば、その情報をいただくなど京都府とも連携をとっている。

<湊委員>

以前にも京都府が亀岡市内の企業を園部町の京都新光悦村に引き抜いたことがある。京都府を信用するだけではなく、亀岡市独自の努力も必要ではないか。

<商工観光課長>

商工会議所を中心に取り組みを進めていただいております。市長も独自の取り組みをすべきと、経済団体と一緒に誘致活動を積極的に行っている。

<菱田委員>

就農支援、商店街、観光振興、企業立地などの施策については、人事異動による職員の頻繁な配置換えにより成果が上がらない。重点施策についてはしっかりと職員を振り付けておかないと地元の声、企業の思いなどの情報につながらない。人事のあり方についても検討を深められたい。要望。

観光推進経費

<商工観光課長 資料に基づき説明>

[質疑]

<馬場委員>

観光客のリピーターを増やすための方策、面的な整備の発信の方向性は。

< 商工観光課長 >

一過性の売り込みではなく、それぞれの季節ごとに亀岡を訪れてもらえるような方策を立てる必要がある。亀岡版るるぶの発信機会の充実、宝探しゲームのような企画立案、首都圏、京阪神への観光PRなどに努めている。色々な手段で繰り返し発信することが観光振興につながる。リピーター増のためには、まずはおもてなしが大切であり、事業展開をする団体に認識を一にするよう対応していきたい。

< 井上副委員長 >

観光大使の顔が見えない。今後のPR活動は。

イベント、プロジェクトに際して、観光協会、商工会議所、市の3者の連携した定期的な話し合いの場はあるのか。

明智かめまるを観光大使に。また12月定例会の一般質問で提案したかめまるカーでるるぶ亀岡を発信するなど明るい話題で取り組まれたい。要望。

< 商工観光課長 >

ホームページ等での発信に留まっているのが現状。再構築に向けた取り組みを進める。

事業展開には、3者が連携して取り組んでいるところであり、さらに積極的に検討していきたい。

< 井上副委員長 >

ホームページに掲載するだけでなく、イベントの際に観光大使が集合するような取り組みなど、顔の見えるかたちでPRされたい。要望。

< 藤本委員 >

観光大使はイベントに参加し、前に出てきていただきたい。

景観計画に際して、まちづくり推進部との連携は。

湯の花温泉街のおもてなし、整備促進は。

< 商工観光課長 >

顔のみえるかたちで再構築したい。

連携して取り組んでいる。

第一印象が大切であり、関係団体と連携してレベルアップを図る。

< 西口委員長 >

経済部所管分の附帯決議をした内容については、議会の強い意志であることをしっかり認識され、次年度の取り組みに反映できるよう、具体的な成果を報告できるよう要望する。

~ 11 : 08

[理事者退室]

[理事者入室] まちづくり推進部 11 : 15 ~

< まちづくり推進部長あいさつ >

コミュニティバス運行事業経費、ふるさとバス運行事業経費

< 桂川・広域交通課長 資料に基づき説明 >

[質疑]

< 馬場委員 >

住み続けられるまちをどのようにつくるかが地域のもつ最大の課題である。独居老人等に対してボランティアで買い物に連れて行くという方がいるが、保険も私費で負担されている。保険代、ガソリン代の補助など、福祉サイドから応える必要があるのではないか。

< 桂川・広域交通課長 >

福祉施策としてそのようなことも含め、今後検討する必要があると考えている。

< 井上副委員長 >

コミュニティバスの今後の計画について、どのようなスケジュールで進めるのか。

< 桂川・広域交通課長 >

公共交通対策特別委員会と協議して進めているところである。まだ中身は確定していない。

道路新設改良事業費

< 道路河川課長 資料に基づき説明 >

[質疑]

< 湊委員 >

大井小学校のPTAが府に要望し実現された府道のカラー舗装、安全表示については、視覚的な効果があるので、市全域に取り入れてはどうかと考えるが。

< 道路河川課長 >

効果的な取り組みであるが、PTAの取り組みとして実施されているもの。市内全域に及ぶと足跡など問題点があるが、今後の施策であると認識している。

< 馬場委員 >

国道9号の渋滞に伴い、中矢田篠線の交通量が増加しており、府道枚方亀岡線と交わる部分で歩行者と車両の頻繁な往来から重大な事故を招くおそれがある。歩道を改良するなど、京都府と協議して対応されたい。要望。

< 桂川・広域交通課長 >

府道枚方亀岡線の当該場所は事故が多いと警察からも指示を受けている状況であり、今後測量に入りたいとの意向を京都府から聞いている。ムツミ病院から国道までは歩道がないため、交通の安全を図るべく取り組んでいきたい。

< 菱田委員 >

枚方亀岡線については、地元の促進協の活動と連携して取り組まれない。

< まちづくり推進部理事 >

促進協からは、事あるごとに報告も受けている。連携をとって取り組んでいきたい。

< 藤本委員 >

中矢田篠線の両側、上矢田と夕陽ヶ丘への開通予定期は。

国道372号と国道477号の接続の工事予定は。

< 都市整備課副課長 >

上矢田工区への接続については街路事業として取り組んでいる。完成予定は平成26年度を目標として進めている。現在の用地買収率は75%であり、目標に向けて努力しているところである。

< 道路河川課長 >

中矢田篠線の市道部分については、今年度中を完成目標としていたが、用地の確保ができていない状況であり、引き続き用地取得に向け1日でも早く開通できるように取り組んでいきたい。

< 桂川・広域交通課長 >

国道372号と国道477号の接続については平成26年度の完成予定である。

公園緑地管理経費、公園緑地整備事業費

< 都市整備課副課長 資料に基づき説明 >

[質疑]

< 小島委員 >

運動公園野球場周辺の樹木が近年枯れてきている。指定管理者の強剪定によるものか自然現象によるものか、原因調査は実施されているのか。枯れた後の植え替えはどこが負担するのか。

< 都市整備課副課長 >

台風等による道路への倒木を防ぐため、国道372号沿いは強剪定の必要があると思われるが、公園内はその必要はない。枯れている箇所を確認して対応したい。強剪定をしたことが原因ということであれば、やはり管理者の負担となるであろうが、その判断は難しい。

< 福井委員 >

開発公園の保守管理において、亀岡地区に関してはどこに連絡しているのか。

< 都市整備課副課長 >

安全管理、修繕等の連絡窓口として、東部自治会、中部自治会、西部自治会それぞれに連絡している。

< 井上副委員長 >

市内の開発公園の数、保険の加入率はどのくらいか。

開発公園の修繕の実績について、実施した件数、金額は。

< 都市整備課副課長 >

現在142公園ある。保険加入は地元であり、実態は把握していない。

平成23年度の当該分予算は200万円。現在までに14公園、148万7千円を執行した。

< 井上副委員長 >

安全に関わることであるので、開発公園の実態把握に努められ、保険加入されていないところには保険加入を勧められたい。要望。

建築物耐震改修促進事業費

< 建築住宅課長 資料に基づき説明 >

[質疑]

< 馬場委員 >

住宅改修助成制度と両立させることと附帯決議をしたが、それは両立というよりもそれぞれ併立して存在させるよう努められたいとの趣旨である。経済対策として効果のある事業であるので、存続するよう努められたい。要望。

< 西口委員長 >

まちづくり推進部所管分の附帯決議の内容については、議会の重い意志であることを自覚し、次年度の取り組みに反映し、具体的な成果を報告できるよう努力いただきたい。

~ 12 : 05

[理事者退室]

3 その他

< 西口委員長 >

次回の月例開催についてご意見を。

[各委員日程調整]

次回の開催日：2月20日(月) 10:00～

内容：未定

散会～12:10